

令和 7 年度 第 1 回彦根市入札監視委員会 議事概要

【日 時】：令和 7 年(2025 年)7 月 17 日(木) 午前 10 時から午前 11 時 47 分

【場 所】：彦根市役所本庁舎別館 2 階 別館 2A 会議室

【出 席 者】委 員：荒川委員長・石井委員・中辻委員・高田委員・片野委員

事務局：契約監理室（奥村室長・西倉次長・大野副主幹）

工事担当課：道路河川課、建築課、下水道建設課、上水道工務課

【傍 聴 者】なし

1 開 会

委員長の選出

委員の互選により荒川委員長が選出される。

2 議 事

(1) 入札および契約手続の運用状況等について・・・・・・・・・・資料 1-1～1-3

※ 対象期間 令和 6 年 10 月から令和 7 年 3 月まで（令和 6 年度下半期分）

事務局から、資料 1-1 資料 1-2 資料 1-3 参考資料に基づき、一括して説明

＜質疑＞

委 員：資料 1-1 に記載されている落札率について。推移を知りたいので過去 5 年から 10 年のデータが見たい。

事 務 局：承知した。昨年度の状況については、令和 6 年度上半期が、建設工事 92.19、委託業務 85.77。令和 5 年度下半期が、建設工事 91.51、委託業務 86.80 であり、ここ 1, 2 年はあまり変わっていない。

委 員 長：では、次の回の会議で提出願いたい。

(2) 抽出案件の審議について・・・・・・・・・・資料 1-4

※ 抽出事案 8 件(一般 5 件、指名 2 件、随意契約 1 件)

【一般競争入札(様式第 5 号の 1)】

① R6 公共下水道金亀町ほかマンホール蓋長寿命化工事

事務局から、抽出事案説明書により、入札経過の概要等について説明

委員（抽出者）から、抽出理由等について説明

落札者以外全員失格の案件。落札者以外は最低制限価格をわずかに下回ったということだと思うが、こういった状況が生じた原因について教えていただきたい。

＜質疑＞

事 務 局：舗装工事は、材料・工法とも比較的シンプルな状況であるため、国の標準単価表どおりに積算すれば一定の金額に落ち着きやすい。あとは、最低制限価格を公表しているため、それを予測して入札額を決定されるため、比較的、最低制限価格ぎりぎりのところで応札されることからこういった現象が起こることが多くある。

委 員：計算しやすく、予測もしやすいのに、20 者中 19 者が失格になっているのはなぜか。

- 事務局：最低制限価格のすべてを公表しているのではなく、そこに係数を一定かけている。そのため係数の部分でどこにあたるかわからず、できる限り下の方に入りたいという思いからこういう結果になったと思われる。
- 委員：多くの業者が使っている積算ソフトから乖離した数字を最低制限価格として設定されているのではないか。乖離が生じた原因を分析してはどうか。
- 事務局：本市では、県も使用しているランダム係数を採用している。数字は公表していない。以前は、逆にもっとかたまっており、ほとんど全部が同じ金額になる状況にあり、それについてご指摘いただいたこともある。委員がおっしゃるようにソフトにすると一定の金額が出るが、そこにあえて係数をかけることによって色々な数字にしている。
- 委員：色々な数字にした結果、それを上回ったり、下回る業者が出るのはわかるが、20 者がすべて下回るのはおかしいのではないか。
- 事務局：係数がいくつかある中で、今回はその中の高めの係数を使った結果、高めに入れた業者だけが落札となり、低めの係数を予測した業者は失格となった。
- 委員：次の案件も同じだが、1 者を除いて多くが失格している。こういった案件が多い気がする。何らかの工夫の余地があるのではないか。
- 委員：予定価格と最低制限価格は両方ともに事後公表か。
- 事務局：そうだ。
- 委員：最近の業者の見積はほぼ積算ソフトで計算したもので、精度が非常によく 100%ピタリとあたる。あとはそこから業者がどこを狙って、当てるのかというみじん切りのイメージである。ただ、それであるともっと数字がばらけてもよい気がする。3 つくらいのかたまりに分かれているのは、例えば、条件が充分出し切れていないところがあった等、他の原因もあるのかもしれない。かたまりであることが気になる。
- 事務局：積算はほぼ 100%で最低制限価格が出るため、そこから α がどういう数字になるかを業者が研究されて、 α が多い値をかけているためと考えられる。以前もランダムではあったが固定した数字が多かったために、ほぼその値にかたまっていた。よりランダムにしたことによって少しずつバラバラになってきてはいる。ご指摘のとおりもっとばらけてもよいかもしれない。
- 委員：価格がいくつかに分かれている場合は特に注意が必要である。私はこちらの積算にミスがなかったか、条件が出し切れていないものがあったのか、そういうことを疑って中を細かく見ていた。ダメなものは中止していた。
- 委員長：最低制限価格の決め方が間違っているということか。
- 委員：そうではない。中身が違くと最低制限価格が変わるため、その辺りに疑いはないか検証したということ。
- 下水道建設課：業者は公表している設計書に基づいて見積を算定している。市では、滋賀県の単価を使用し、県単価にないものは、経済調査会の物価本。そこにはないものは、特別単価を徴取する等して単価を設定している。県単価や物価本は公表されているため業者も容易に入手できる。特別単価は特殊なもので業者が知りえることは難しいが、そういった単価は、積算条件明示書で公表しているため、どういう形で見積をしたらいいのかわからないという状況ではないと考えている。また、業者からの質問を受け付け、適正な見積ができないと判断した場合には市から回答をしている。予定価格については、委員がおっしゃられたように積算ソフトもかなりよいものが出ているので、ある程度近い額が算出できる状況にあると考えている。また入札後、項目ごとに設計を公表しているため、業者としても答え合わせをしやすい状況になっている。業者からの積算疑義もあがってこなかったため、担当課としては、予定価格は適切なものであったと判断している。
- 委員：最低制限価格は、予定価格に係数をかけて計算されるのか。
- 事務局：そのとおり。一定の係数は公表しているが、 α については非公表としている。

※ 市長への答申等は、特になし

② R6 清崎町配水管布設跡舗装復旧工事

事務局から、抽出事案説明書により、入札経過の概要等について説明

委員（抽出者）から、抽出理由等について説明

①と同じ。大量の失格者が出た結果、落札者が最も高い業者となった。その結果落札率が95%。最低制限価格にひっかかった業者が落札していればもっと契約費用を下げられたのではないか。

<質疑>

事務局：①と同じ舗装工事で比較的計算がしやすい。予定価格が算出しやすく、そこから最低制限価格についても一定の係数をかけていってということで、業者が予測された中で、こういった結果となった。最低制限価格は75～92%の範囲となるが、あまり下にするとう工事の品質等が保てないということもある。そういった意味では、92%あたりの価格となっているため、事務局としては、高く設定しすぎているとの判断はしていない。

委員：予定価格がほぼほぼ同じで、あとは何倍するかという違いがあるので、こういうかたまりみたいになる。他市町でこういったことはあるのか。自分が知る限りではないが、彦根市はこういうことがよくみられる。

事務局：他市町について金額がかたまっているかまでの確認はしていない。滋賀県はどうか。

委員：どこかにかたまるといえるのはある。上に出る時もけっこうある。皆が失格で1者だけ残るとか、全員失格というのは時折生じる。

※ 市長への答申等は、特になし

③ 市立図書館塗装改修工事

事務局から、抽出事案説明書により、入札経過の概要等について説明

委員（抽出者）から、抽出理由等について説明

代表者同士が親族である等、資本や人事面において関連が見込まれるような会社がある業種については注視した方がよい。今回は落札率も高いため抽出した。

<質疑>

委員：以前、代表者が同じ会社が入札に参加するのは問題があるとして、社長が同じ会社は同一案件の入札に参加できないように規程を変更いただいていると思う。

事務局：代表者が同じ場合は不可としている。

委員：代表者が同じでなければルール上は問題ないが、入札談合は話し合いがしやすい環境で生じやすいため、話し合いがしやすい環境にあるような業種は注視しておく方がよい。

委員長：実際、親族で同じ業種というのはありえることだが、今後とも注視をお願いします。

※ 市長への答申等は、特になし

④ 市立病院水中ポンプ更新工事

事務局から、抽出事案説明書により、入札経過の概要等について説明

委員（抽出者）から、抽出理由等について説明

応札者が1者で、特殊な工事だとは思いますが、もう少し応札者が増える工夫をする余地はあったか知りたい。

<質疑>

事務局：病院の工事は、病院が動いている間はなかなか工事に入りにくい、土日等に入ってもらいたい等、工期が比較的限定されやすい。人の確保が難しいということから業者が敬遠されたと聞いている。

委員：この工事は業者を県内まで広げられているが、③は市内 9 者となっている。数の目安、ルールみたいなものはあるか。

事務局：決まったものはないが、指名の場合は 15 者。入札の場合は、対象者もそうだが、実際、工事の内容如何によって参加いただけるだろうかということも考慮している。

③の工事は、対象業者であればほとんどできるだろうと判断したが、今回の工事は、いろんな条件があるので参加が少ないだろうというところで対象としては少し広げた形で選定している。こういった感じで目安としてはある。

事務局：この工事は一度不調になった工事である。再度入札をかけて、何とか 1 者応札があったという経緯がある。

委員：1 回目も対象は同じか。

事務局：同じである。

委員：これは更新工事だが、新規工事の業者も同じか。

建築課：25 年前の業者になる。その際は建設工事として工事をしており、どの業者が施工したかを調べるのは難しい。

※ 市長への答申等は、特になし

⑤ 金城小学校ほか 3 校防犯対策工事

事務局から、抽出事案説明書により、入札経過の概要等について説明

委員（抽出者）から、抽出理由等について説明

まず落札率が高い。同じカテゴリーの電気通信工事 3 件とも小学校の防犯対策工事で、同じ会社が落札。3 件とも再入札になっている。内容的には監視カメラとインターホンの設置であり、そんなに予定価格を超えるような見積になる工事なのか疑問である。

<質疑>

建築課：市は積算システムを使用して、国の共通費や算定基準にのっとり計算しているので、それと業者が算定される経費の額とずれたということだと考えている。

委員：監視カメラやインターホンは、かなり詳細にスペックまで指定されていたのか。

建築課：そうだ。参考見積書を徴取し、割引率等は県の基準に従ってこちらで設定している。

委員：予定価格を 700 万円も上回る企業がいた要因として何が考えられるか。

建築課：2 者については、彦根市に営業所はあるもののカメラ等の弱電の施工をする下請け業者との繋がりが弱く、また距離的なことから経費が上がってきたと考える。

委員：これからも小学校の防犯対策工事が市内全域で行われていくと思うが、3 回とも同じようになっているのであれば、見直しをしていく余地があるのではないか。入札参加者を広げるとか。

事務局：入札参加者を広げていくような工夫を検討していきたい。

委員：落札業者は同じだが、入札した業者も同じか。

事務局：「28 亀山小学校ほか 2 校防犯対策工事」は同じ 3 者。「29 中央中学校ほか 2 校防犯対策工事」の 2 者は落札業者と別の 1 者である。

委員：工事の時期は特定されず、順番にやっていけるのか。

事務局：金城小と亀山小の工事は同じ時期にはじまり、同じ時期に終わる。中央中の工事も開始は少しずれるが、ほぼ同じ時期に終わる。

委員：契約後に契約業者等にこういう結果になった原因を確認されたか。

事務局：事務局ではそこまでの確認は行っていない。

建築課：本工事については確認していない。

委員：市の見積と実際の見積が合わない理由。例えば、機械の値段が市が見積を取った時と時価に差があるのであれば、他の方法等も考えていかなければならない。原因を知っておくと対処の仕方もあると思うので、確認されるとよい。

※ 市長への答申等は、特になし

【指名競争入札(様式第5号の2)】

⑥R6 彦根市内通学路整備工事(その4)

事務局から、抽出事案説明書により、入札経過の概要等について説明
委員（抽出者）から、抽出理由等について説明

落札者以外が失格または不参加の工事。失格になった企業は最低制限価格より低すぎた、不参加の企業は参加しても予定価格を超えるだろうから不参加の判断をしたと考えるが、これだけ上と下にばらつきが出るのはどういう工事なのか。

＜質疑＞

事務局：予定価格が比較的算出しやすい中で、最低制限価格を狙ってこういった形になっている。不参加の理由までは確認していないが、13 者中 10 者が応札。特に不参加が多いということではないと考えている。

委 員：指名競争入札と一般競争入札の工事の区切りは何か。

事務局：予定価格 1,000 万円未満の工事は指名競争入札、それ以上は一般競争入札となる。

委 員：一般競争入札の方が事務的な手間がかかるのか。小さいのが指名で、大きいのが一般としている根拠は何か。小さい工事を一般にしない理由は。

事務局：条件を一緒にしてしまうと参加できない業者が出てくることもあり、応募の機会を均等にするため、工事の大きさによって、大きな工事は大きなところに、比較的小さな工事のときは小さなところに入っていただくということで振り分けをしている。

委 員：条件一般競争入札の条件のところで絞るのはだめか。

事務局：条件で、「1,000 万円超は A ランク、1,000 万円以下は B ランク」というようにすればできるが、事務的な手間のところで今は行っていない。他にも色々あるかもしれないが、そういったことがないということであれば条件付でもできるかと思う

委 員：どちらかといえば条件付一般競争入札の方が入札形態としては望ましいのでは。

事務局：そちらが原則ではある。数が少ない場合は、指名競争入札でも問題はない。

※ 市長への答申等は、特になし

⑦ 彦根城博物館非常用照明改修工事

事務局から、抽出事案説明書により、入札経過の概要等について説明
委員（抽出者）から、抽出理由等について説明

失格者、不参加が多かった案件であるが、入札額が上から下まで幅が広い。92 か所の照明を取り替えるだけの工事にみえるが、これだけ広がりが出るのはどういった工事なのか。

＜質疑＞

建築課：業者からある程度聞き取りをしている。考えられる要因は 2 点。1 点目は、昨年に工事の共通費の算定基準が変わり金額が上がったが、その改定を知っている業者と知らない業者で経費算定の差が出た。もう 1 点は、照明工事については、積算上は共通の国の単価を使っているが、特に照明を大量に仕入れるとスケールメリット、卸値に割引率がきいてくる。仲介業者（材料屋）においては、数を発注するとかなり割引がきくようなところもある。設計上そういったことが充分考慮できておらず、それが開きに繋がったと考えている。

委 員：できればスケールメリットを生かせる業者に落札してもらった方が発注側としても、よかったのではないか。

建築課：ご意見のとおり。事前に何者か仲介業者を調査して対応するようにする。

委 員：備考欄が空欄の業者は予定価格を超えているが、失格との表記はしないのか。

事務局：予定価格を超過しているので、失格にはなっていない。失格の場合は再入札の時には応札できないが、予定価格超過の場合は、落札者がなければ 2 回目にチャンスがある。予定価格を事前に公表している場合は、超えた札を入れると失格だが、事後公表としているので有効である。

委員：落札したいがために切り詰めすぎではないかという最低制限価格の主旨は理解しているが、最低制限価格を下回っても、第2ラウンドに進めるという制度改正はありえないか。

事務局：国や大元のルール等を確認していないが、それに反しないのであれば検討はできるかもしれない。

※ 市長への答申等は、特になし

【随意契約(様式第5号の3)】

⑧ R6 公共下水道西今町ほか管渠調査委託業務

事務局から、抽出事案説明書により、入札経過の概要等について説明

委員（抽出者）から、抽出理由等について説明

工事は落札率 99%が当たり前と思っていたが、委託業務になると随意契約でもこんなにも落札率が下がる。工事の随意契約と委託業務の随意契約で様相が異なるのはなぜか。

<質疑>

事務局：一般的な傾向であるが、資料 1-2 に記載のとおり、工事の落札率は 90%を超え、委託業務については 80%ということで、こういった開きがある。委託業務については比較的落札率が低くなる傾向にあるが、今回は 70%を切る結果となっている。

下水道建設課：落札率が低かった要因としては、本業務はマンホールの点検のみで、土木工事のように材料費や外注等、他にお金を取られるような業務ではない。専門的な機材も必要とせず、比較的難易度の低い業務だということと、合特法（下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法）に基づく支援事業ということで継続して事業を実施いただいている。業者が作業量や必要経費を把握できる状況にあるため、ある程度利益を確保できる範囲で価格を見積った結果、落札率が低かったのではないかと推測する。令和 5 年度の同種業務においても請負率約 71%と同じような結果であった。

委員：前年の経験もあって、もう少し利益がとれると業者が考えても不思議ではないのに、予定価格も予想ができる中で、なぜこの額でやろうと思ったのか。

下水道建設課：一般競争入札や指名入札の場合は、予定価格や最低制限価格を事後公表しているが、随意契約は事後も公表していないので、業者は予定価格や請負率を知りえない。

委員：例えば、予定価格を超えた金額を出された場合はどうなるのか。

事務局：予定価格と比較して超えていれば、もう一回改めて出してもらうことになる。

委員：2 回目も超えたらどうなるか。

事務局：3 回目になる。

委員：工期の期日がおかしい。

事務局：ご指摘のとおり、令和 7 年 3 月 14 日の誤りである。修正をお願いします。

委員：長：工期は契約の翌日に決まっているのか。あるいは工期のはじまる前日に契約するのか。また工期の開始と終わりは市が決めるのか。

事務局：入札で落札を決定してから 10 日以内に契約するとなっているので、10 日後を契約日に設定して、契約日の翌日から工期が始まるようにしている。

※ 市長への答申等は、特になし

3 その他

事務局から、次回委員会を 12 月頃に予定していること、開催時期が迫ったら日程調整を行うこ

とについて説明した。

4 閉 会

契約監理室長挨拶